



2024年2月2日

各位

会社名 サイバートラスト株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 北村 裕司
(コード番号：4498 東証グロース)
問合せ先 取締役 常務執行役員 CFO 清水 哲也
(TEL 03-6234-3800)

2024年3月期第3四半期決算に関する質疑応答集

当社の2024年3月期第3四半期決算に関して、当社で想定していました質問および発表以降に株主・投資家などの方々からいただいたお問い合わせ、感想および当社からの回答をまとめましたので以下の通りお知らせいたします。

なお本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆修正を行っております。

Q1 2024年3月期通期業績予想を修正した理由について教えてください。

A1 認証・セキュリティサービスは、高成長牽引サービスのiTrustが伸長し期初予想通りに着地を見込む一方で、Linux/OSSサービスおよびIoTサービスは以下の理由により期初予想を下回る見込みとなりましたため、2024年3月期の通期業績予想を下方修正いたしました。

1. Linux/OSS サービス

CentOS7の2024年6月末のコミュニティサポート終了を控え、多数のサーバーを有する大手事業者、地方の中小・中堅事業者に対して、CentOS7延長サポートおよびLinuxOSに関連するCloudLinux社サービスを提案し、当期中は第3四半期から第4四半期にかけて、前倒しで契約獲得することを期初において計画しておりました。

しかしながら、お客様の要望を踏まえたサービスメニューの拡充などによりAlmaLinuxサポートおよびCentOS7延長サポートの販促活動に遅れが生じたこと、また第4四半期に獲得を見込んでいた多数のサーバーを有する大手事業者との数億円規模のCentOS7延長サポートの大型案件が失注となったことから、Linux/OSSサービスの売上高は期初予想を2割下回る見込みとなりました。

2. IoT サービス

国際安全基準や国内の経済安全保障法制の適用範囲拡大の流れの中で、セキュリティ要件に対応できる当社製品・サービスへの引き合いは増加傾向にあります。

IoT機器メーカー様に対して、EMLinuxカスタム開発を中心とした受託開発案件の契約獲得を加速させること、昨年度、試作開発の受注に至った案件を本番稼働させること、を期初において計画しておりました。

しかしながら、当社技術への関心の高まりとともに、本番稼働におけるシステム構築においてお客様が当社に求める領域が拡大し案件が大型化してまいりました。

その対応のための協業パートナー開拓が遅れ、受注機会を逃す結果となりました。

これにより、IoTサービスの売上は期初予想を3割下回る見込みとなりました。

Q2 CentOS7 延長サポートの新規大型案件の失注の理由は今後の事業展開に影響がありますか？

- A2 当社が提供する CentOS7 延長サポートは、1) 日本語による長期テクニカルサポート、2) セキュリティアップデートサポートをベースに、システム無停止によるライブパッチサービスなどの高付加価値サービスを提供しております。
- 当社は主要な競合である海外ベンダーと比較して日本語による長期サポートと高付加価値サービスが提供できる点で優位性を有し、2024年6月末のCentOS7サポート終了に向け契約獲得を進めております。

本件商談を進めていたお客様はいわゆるマルチナショナル企業で、直接オープンソースコミュニティからの情報を英語で得ることが可能なエンジニアリソースと体制を有していたことから、日本語による長期サポートは不要であり、セキュリティアップデートサポートのみを必要とされた特殊なご要望をいただいております。このような特殊なご要望を頂くなかで、交渉を重ねて参りましたが、最終的に合意には至りませんでした。

なお、本件のお客様は、当社がメインターゲットとする日本語による長期サポートを必要とする「多数のサーバーを有する国内大手事業者」と「地方中小・中堅企業」とは異なるため、今後の事業展開には影響はないものと考えております。

Q3 AlmaLinux サポート及び CentOS7 延長サポートの販促活動の遅延の理由は今後の事業展開に影響がありますか？

- A3 2024年6月CentOS7コミュニティサポート終了に向け、以下の販促活動を進めておりました。
- 1) 従来の当社サポートサービス
 - 2) CloudLinux社と提携後の協業サポートサービス
- その中で特に大型案件のお客様からカスタマイズの要望があり、その要望に対応するためCloudLinux社と連携しサービスメニューの見直しに取り組んだ結果、2)の販促活動に遅れが生じました。

なお、CentOS7延長サポートの問い合わせ件数は、2021年12月末のCentOS8サポート終了における同時期に比べ約3倍まで高まっており、CentOS7延長サポートの需要は高まっております。

また、CentOSの後継OSとしてはAlmaLinuxが最有力候補であると認識しております。^(※)

販促活動の遅れはあったものの需要の高まりに変わりはなくCentOS7延長サポートやAlmaLinuxサポートの今後の事業展開に影響はないものと考えております。

^(※) Q2 決算説明資料P15「今後利用したいLinuxOS」のアンケート調査結果参照

<https://pdf.irpocket.com/C4498/NvAy/wFAj/z0en.pdf>

Q4 IoT サービスの受託開発の減収理由は今後の事業展開に影響がありますか？

- A4 当社製品・サービスへの大型受託開発案件の引き合いが増える中、お客様が当社に求める領域も拡大してきております。
- 例えば、開発過程における常駐対応や、要件定義工程から深く関与を必要とするもの、開発業務の領

域について当社が知見、技術を有する OS やその周辺のデバイス領域に加えて、クラウドやアプリケーションの領域までの全体設計や開発までご希望頂くことが増え、案件の大型化に伴い協業パートナーとの連携が重要になってきております。

この傾向は期初より想定し、協業パートナーとの連携は進めてまいりましたが、大型案件で協業するパートナーの開拓に遅れが生じたため、複数の大型案件の受注機会を逃す結果となりました。

課題である協業パートナーの開拓を引き続き進めてまいります。

また、IoT を取り巻く事業環境は、導入実績のある**車載・産業制御機器分野**に加えて、医療機器分野でも SBOM を使った脆弱性管理の流れがあります。**医療機器分野**で**複数の新規案件獲得**もあり今後も拡大を見込んでおります。

- * iTrust®は当社の登録商標です。
- * 登録商標 Linux® は、Linus Torvalds から排他的ライセンスを受けている The Linux Foundation からサブライセンスを受けて使用しています。
- * その他本文書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。

以上